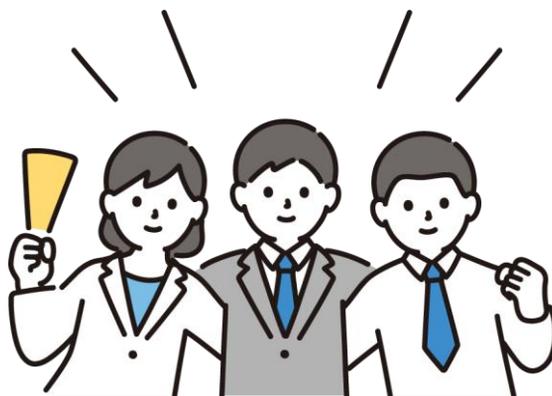


令和7年度

研究テーマ

12年間の系統性

— 系統性を意識した教育課程って何? —



成果と課題

京都府立中丹支援学校

段階研究

発達段階別に研究グループを組み、生活単元学習「社会貢献」の単元において、児童生徒の「ねらいたい姿」を各学部系統的に検討し、それを基に来年度の単元計画を考えました。

「社会貢献」の単元における児童生徒に「ねらいたい姿」



A・B1グループ

基礎的汎用的能力	キーワード	小学部	中学部	高等部
人間関係形成・社会形成能力	人や社会とのかわり ○意思・要求、挨拶 ○協力、協働	○相手に触れて関わろうとする ◎指導者と一緒に活動する	○自分から相手に触れて関わろうとする ◎指導者や友達と一緒に活動する	○自分から誰とも関わろうとする ◎誰とも一緒に活動する
自己理解・自己管理能力	自己理解挑戦 ○自信、自己肯定感 ◎選択・決定、目標設定	○興味関心のあることに取り組み、できたという経験を積む ◎自分のやりたいことを示し、指導者と一緒に取り組む	○得意なことを自ら進んで取り組む ◎選択肢の中から自分のしたいことを選んで、取り組む	○いつでもどこでも誰とも取り組める ◎自分の考えや思いを表明しながら活動に取り組む
課題対応能力	考える行動する ○意欲的 ◎解決策、計画	○繰り返し取り組む ◎指導者と一緒に繰り返し取り組む中でやるべきことが分かる	○友達の様子を見て取り組む ◎選択肢の中から解決策を選ぶ	○初めてのことにでも取り組もうとする ◎選択肢の中から解決策を選んで、取り組もうとする
キャリアプランニング能力	生活、働く ○ルール、判断 ◎振り返る、達成感	○ルールやマナーを知る ◎活動する中で楽しさを感じる	○ルールやマナーを知って、指導者と一緒に行動する ◎活動を振り返り、できたことや楽しかったことを実感する	○繰り返し取り組み、習慣化することでルールを守る ◎活動を振り返り、自分の得意不得意を知る

B1・B2グループ

基礎的汎用的能力	キーワード	小学部	中学部	高等部
人間関係形成・社会形成能力	人や社会とのかわり ○意思・要求、挨拶 ○協力、協働	○自分の要求を言葉や身振り手振り等で伝える ◎友達と一緒に活動する	○相手とのやりとりを意識しながら、言葉やジェスチャーで要求を伝える ◎友達と協力しながら、自分の役割を果たす	○相手や場の状況に合わせて自分の思いや要求を伝える ◎相手の立場や気持ちを考えて行動する
自己理解・自己管理能力	自己理解挑戦 ○自信、自己肯定感 ◎選択・決定、目標設定	○自信をもって役割を果たし、いろいろなことに挑戦しようとする ◎自分の好きなことや得意なことを知り、選んで取り組む	○自分の向いている役割が分かり、取り組む中で自信をつける ◎自分の好きなこと、苦手なことを理解して、目的や状況に応じて選んで取り組む	○状況に応じた自分の役割を果たし自信をつける ◎自分の得意・不得意を理解し、必要に応じて選択しながら苦手なことにも挑戦する
課題対応能力	考える行動する ○意欲的 ◎解決策、計画	○いろいろなことに挑戦しようとする ◎やるべきことを理解し、自分から取り組もうとする	○選択肢から、したいことを選び、その理由を説明する ◎指導者の助言を基に解決策を考えて、計画を立てようとする	○苦手なことも含めて様々な活動に自分から進んで挑戦しようとする ◎課題や状況に応じた解決策を自ら考え、計画的に取り組む
キャリアプランニング能力	生活、働く ○ルール、判断 ◎振り返る、達成感	○決められたルールを守ったり、役割を果たしたりする ◎活動後に達成感を感じ、できたことや楽しかったことを振り返り、次への意欲につなげる	○生活や活動の目的を考え、見通しをもって行動しようとする ◎活動を振り返り、うまくいったことや、課題を考え、次の活動に生かそうとする	○社会的ルールの必要性を理解し、ルールを守りながら生活したり、社会の為に役割を果たしたりする。 ◎与えられた役割を果たし、達成感をもつと同時に、次への課題や目標をもつ

B2・C・Dグループ

基礎的汎用的能力	キーワード	小学部	中学部	高等部
人間関係形成・社会形成能力	人や社会とのかかわり ○意思・要求、挨拶 ◎協力、協働	○自分から身近な人に挨拶をしたり、自分の意見を伝えたりする ◎友達と協力しながら活動する	○正しい言葉遣いで自分の気持ちや考えを他者に伝えようとする ◎相手の思いを受け止めながら活動する	○誰でも自分から関わろうとし、報告・連絡・相談ができる ◎自分の立場や役割を理解した上で、他者を思いやる言動をすることができる
自己理解・自己管理能力	自己理解挑戦 ○自信、自己肯定感 ◎選択・決定、目標設定	○得意なことから自信をつける ◎何事にもやってみようとする	○感謝される経験をし、自己肯定感を高める ◎自分の得意、不得意を考えながら目標を立て、取り組もうとする	○ありのままの自分を認めつつ、苦手な部分は伸ばそうとする ◎自分の得意不得意を理解し、周囲の人に援助を求めながら、苦手なことも挑戦しようとする
課題対応能力	考える、行動する ○意欲的 ◎解決策、計画	○様々なことに興味関心をもち、挑戦しようとする ◎周りの様子を見て、やるべきことを理解し、見通しをもって自ら取り組もうとする	○苦手なことや新しいことにも自ら進んで挑戦しようとする ◎課題や状況を判断し、計画を立てて取り組もうとする	○あらゆる場面で自分なりに試行錯誤しながら、挑戦しようとする ◎活動の目的を理解し、すべきことを順序立てて計画・実行をし、よりよく改善しようとする
キャリアプランニング能力	生活、働く ○ルール、判断 ◎振り返る、達成感	○社会におけるルールやマナーを知り、守って行動しようとする ◎活動を振り返り、できたことや難しかったことを考え、次に生かそうとする	○何のために社会のルールやマナーがあるのかを知り、守って行動しようとする ◎振り返りを通して、自分の成長を感じたり、課題を明らかにしたりして、新たな目標を立てようとする	○社会のルールやマナーを広い視点で捉え、社会の一員としてふさわしい行動をしようとする ◎振り返りを通して自分の良さを実感し、自己肯定感を高めながら日常の中でよりよい行動を目指そうとする

成果と課題



成果

- ・実践交流を通して、各学部の取組内容や大切にしていることを共有できた。
- ・各学部を交えた縦割りの段階グループで意見交流することができ、12年間の系統性について考えやすかった。
- ・各学部や段階ごとに、「ねらいたい姿」が示されていたため、それを基に系統的に単元計画を立てることができた。



課題

- ・年度をまたぐと、今回検討した単元計画の内容について丁寧に引継ぎをしないと、実施できないことがある。



改善

- ・様々な学部の指導者と実践交流や授業づくりについて話し合う機会を引き続き設定する。
- ・今回検討した単元計画は、来年度の単元配列表や年間指導計画に反映してもらうように呼び掛ける。

学部研究

今年度は、授業力向上を図るために各学部で研究テーマを設定し、学部研を実施しました。

小学部「授業力向上を目指して～魅力的な導入を考えてみよう～」

児童が主体的に学習に取り組めるように授業の導入部分に焦点を当てて、“魅力的な導入”についての研究を行いました。導入の役割や意義を確認し、導入で活用できるアプリや仕掛け等を共有しました。各グループでより児童を惹きつけられる魅力的な導入を考え、実践しました。



成果

- ・ 夏と冬の年2回の学部研は、授業づくりをじっくりと考える貴重な時間になっていると多くの教員から肯定的な意見が出された。
- ・ 授業づくりを振り返り、次の学期を見通すよい機会となった。
- ・ 他学級の実践を知ること、子どもの姿の捉え方や関わり方について、新たな気づきや学びを得ることができた。



課題

- ・ 意見交換や話し合いの時間をしっかり確保していく。
- ・ 教材の工夫や具体的な指導手立てについて、より具体的な情報を求める意見があった。



改善

- ・ グループワークや意見交流の時間を設け、教員同士が互いに学び合う双方向的な学びが深まる研修を目指す。
- ・ 教材紹介や導入の工夫など、授業の具体的な実践内容を取り入れていく。

中学部「授業力向上を目指して

～効果的なICT機器等の取り入れ方、使い方を考えよう～」

効果的なICT機器等の取り入れ方や使い方について焦点をあてて、研究を行いました。各グループや学級で取り入れているICT機器やアプリについて交流したり、実践をしたりしました。



成果

- ・ 研究を行うことで、ただ、使うだけでなく、効果的に生かすという視点をもって授業を行うことができた。
- ・ 研究したことを、実践することで新たな課題が見つかって良かった。
- ・ 継続してICT機器を扱うことで、見直しをもって活動することができた。



課題

- ・ 使い方がワンパターンになることがある。



改善

- ・ 引き続き、効果的な取り入れ方や使い方について研修を進めていく。

高等部「授業力向上を目指して～魅力的な導入を考えてみよう～」

生活単元学習の授業作りにおけるポイントを確認した上で授業の導入部分に焦点を当て、“魅力的な導入”についての研究を行いました。各グループで実践した授業の導入を交流した後、魅力的な導入にするために大切にしたいこと、次学期の導入をグループ毎で協議し共有しました。

協議① 魅力的な導入にするために

- ・初めての事は拒否感をもつこともあるが、一つの単元、複数回長いスパンで取り組むことが大切になる。【A段階】
- ・子ども達に音読をさせることを通して音の響き、字、文字等の言語理解を促す。【B1段階】
- ・遊びこむ、やり込む体験型。【B1段階】
- ・スケジュールの提示（単元全体の見通しを1回目の授業でもたせる）。【B2段階】
- ・前回の授業の復習。【B2段階】
- ・実物を見せてイメージをもたせる。【C・D段階】

協議② 次学期の生活単元学習の導入

- ・絵本、パネルシアター、ペープサート、イラストを導入で取り入れる。
- ・「〇〇を作ろう！」→お正月あそび、何がある？と生徒に発問し様々なお正月遊びを体験する。
- ・ロイロノートで絵札を作成→提出、印刷→ラミネート→グラウンドで遊ぶ
- ・「3年生を祝う会」での決意発表に向け、発表態度を意識させ、どう頑張るかを考えさせる。
- ・18歳で堂々とスピーチしている動画を見せる。



成果

- ・各グループの実践を知れてよかった。
- ・具体的に授業の導入を考えることができて良かった。
- ・学部研で交流したことを次学期の実践に生かすことができた。
- ・導入のヒントになる話や授業づくりのポイントを聞くことができて良かった。



課題

- ・学部研以外で他の学級や学習グループの授業実践を知る機会が少ない。



改善

- ・次年度以降も学部研を通して学級やグループを越えた授業実践の交流を積極的に行っていく。

授業研究・改善

令和6年度の研究で計画した生活単元学習「社会貢献」の単元を基に、授業研究を行いました。今年度も単元計画シートを作成し、取り扱う教科の内容を示し、各教科の視点を意識した授業づくりを行いました。

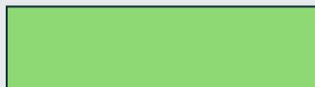
事前研や事後研では、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業研究を行いました。事後研では、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の姿を整理し、より「主体的・対話的で深い学び」の姿を引き出すための手立て、環境設定等を検討し、授業改善をしました。



類似する姿をキーワードごとにまとめる

主体的な姿

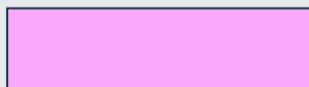
興味・関心



見通し・目的



意欲的・自主的



より「主・対・深」の姿を引き出すための手立て・工夫を考えて書く

児童生徒の姿を付箋に記入し、事後研で意見交流する



成果

- ・事前研では、児童生徒の実態や授業の概要を知ることができ、参観者の視点をより深くもつことができた。
- ・事後研では、「主・対・深」の視点からよりよい授業づくりについて話し合うことができた。
- ・他学部の指導者と授業について話すことができる良い機会だった。



課題

- ・授業によっては参観者が少なく、事後研の討議の深まりに課題が残った。

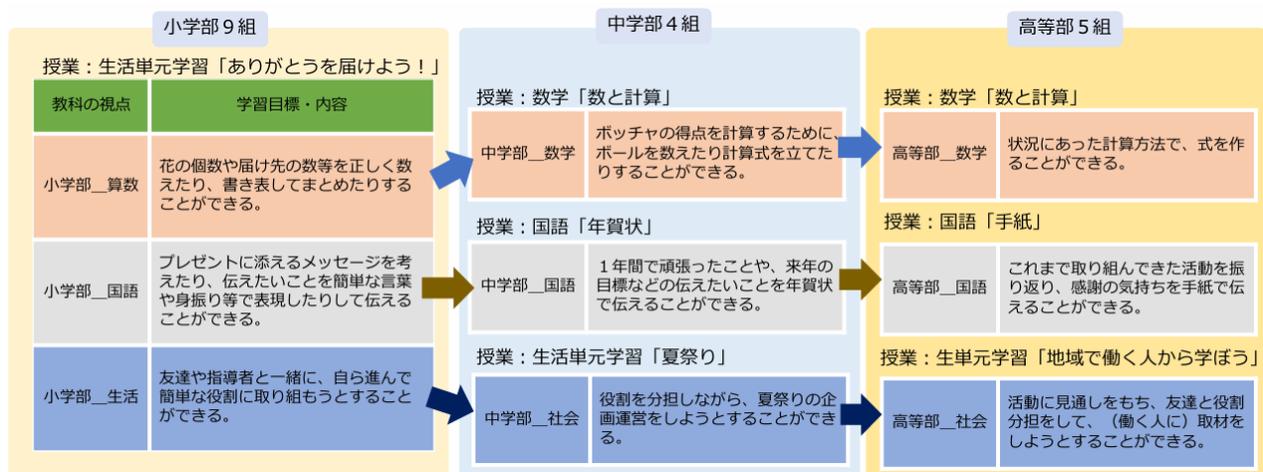


改善

- ・授業について話し合う機会を来年度も引き続き設定する。
- ・研究授業数を絞る、または前期、後期で同等の授業数にして、参観者の偏りをなくす。
- ・授業者に負担がかかりすぎないように、作成物等を精選する。

教務部との連携

研究授業で学習した教科の内容が、各学部でつながりがあるのか、またどのようなつながりがあるのか、教務部研修会の中で、ワークシート（下図参照）を使って全校で考え合いました。



教務部研修会ワークシート（小9組、中4組、高5組作成分）より

まず、シートにすることで、他学部と教科の内容でつながりがあることが分かりました。これは学習指導要領を踏まえながら、日々学部段階を意識して実践してきた成果①ではないかと考えます。また内容を詳しく見ていくと、「身近なところ（小・中）から地域とつながる（中・高）」②、「自分が楽しむといった意欲を育み（小）、学部が上がるほどより大きい集団の中で役割を担う（中・高）」③ 学習内容は、系統的なつながりになりやすいことも分かりました。

次年度以降、下線部①②③を意識して年間計画を作成し、12年間の系統性を意識した、より良い教育課程を編成・実施していきます。

研究のまとめ

- ・生活単元学習の社会貢献の単元における「ねらいたい姿」及び、他学部の各教科とのつながりについて、小学部から高等部までの12年間の系統性を踏まえて検討することができ、次年度の計画へとつなげることができた。
- ・授業研究を通して、児童生徒の学習の姿を中心に協議を重ね、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた効果的な手立てや学習環境の在り方について具体的に検討し、授業改善を図ることができた。

⇒本研究を通して児童生徒の学びを小学部から高等部までの12年間のつながりの中で捉え、系統性を意識した教育課程の在り方について共通理解を深めることができた。次年度はこれらの成果を踏まえ、各学部の実践を通して、より一層の授業改善と指導の充実を図っていきたい。

